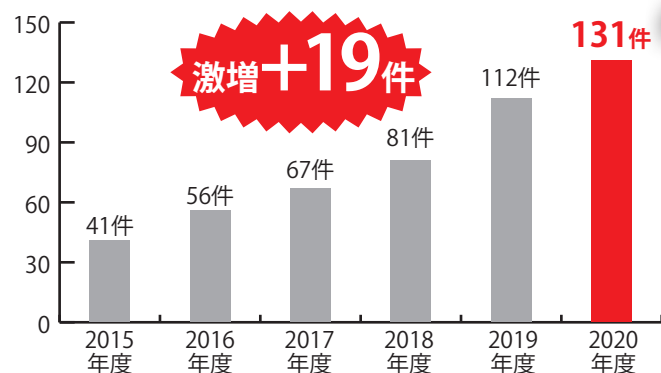


大型トラックの 車輪脱落事故が 激増中!

— 死亡・重傷事故も発生 —



車輪脱落による
人への衝撃!



※統計データは、「自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告」(国土交通省提供)による。以下、同じ。
※大型トラック: 車両総重量8トン以上

出典: 大型車の車輪脱落事故防止に向けた
安全啓発ビデオ(抜粋)

実験の映像は
こちらからご覧いただけます。

[https://jta.or.jp/member/
anzen/tenken_snow_dvd.html](https://jta.or.jp/member/anzen/tenken_snow_dvd.html)



公益社団法人
全日本トラック協会

緊急決議

冬用タイヤに交換した大型トラック等から左後輪が外れ
歩行者などに衝突する事故が相次いで発生している

- 令和3年12月6日 広島県内の国道において、大型トラックの左後輪が脱落し、外れたタイヤが対向車に衝突
- 令和4年1月12日 群馬県内の国道において、大型トラックの左後輪が脱落し、外れたタイヤにより対向車線側の歩道にいた歩行者が重傷
- 令和4年1月18日 岐阜県内の高速道路において、大型トラックの左後輪が脱落し、外れたタイヤにより走行していた乗用車の乗員が負傷
- 令和4年1月19日 長野県内の国道において、中型トラックの左後輪が脱落し、外れたタイヤにより対向車の乗員が負傷

トラック運送事業は、国民生活と社会経済活動に欠かせないエッセンシャル事業として、日夜敢行して国内物流を担っている一方で、事業用トラックからの車輪脱落は、輸送の安全確保を最優先としてトラック運送事業を遂行するにあたり、あってはならない極めて憂慮すべき事案である。こうした現状を重く受け止め、以下に掲げる事項について、トラック運送業界が一丸となって取り組み、同種事故の再発防止に努めることを交通対策委員会として緊急決議する。

- ・各事業所においては、事業用トラックの車輪取り付け状態の緊急点検の実施
- ・整備管理者等による日常点検の励行。特に、トラックドライバーなどによる運行前の大型トラックの左後輪のホイールナットの緩みの有無を、「ホイールナットマーカ」「点検ハンマー」などにより重点的に確認
- ・整備管理者等は、国が定めた「タイヤ交換作業管理表」によるタイヤ交換作業の確実な実施、及び交換後のホイールナット増し締めの実施

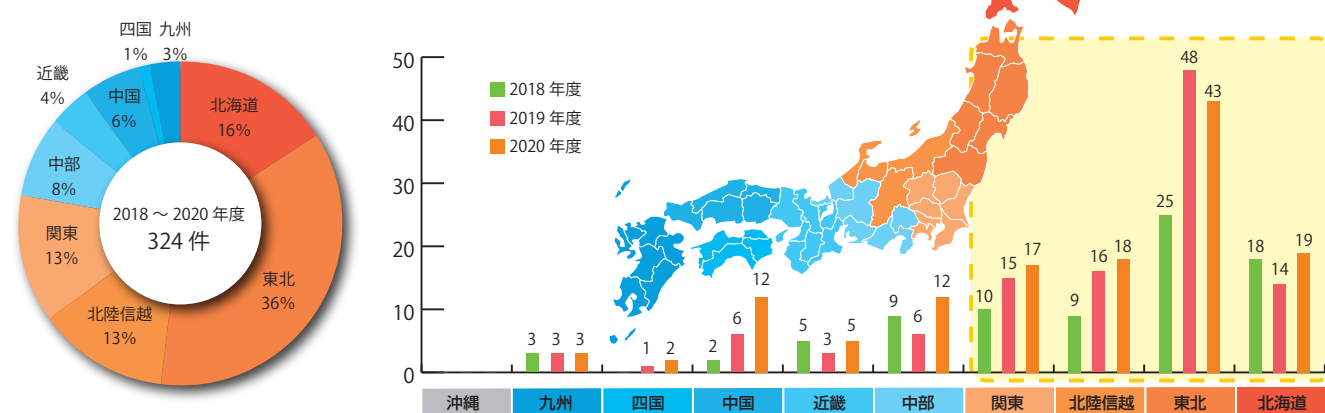
令和4年2月8日

公益社団法人 全日本トラック協会

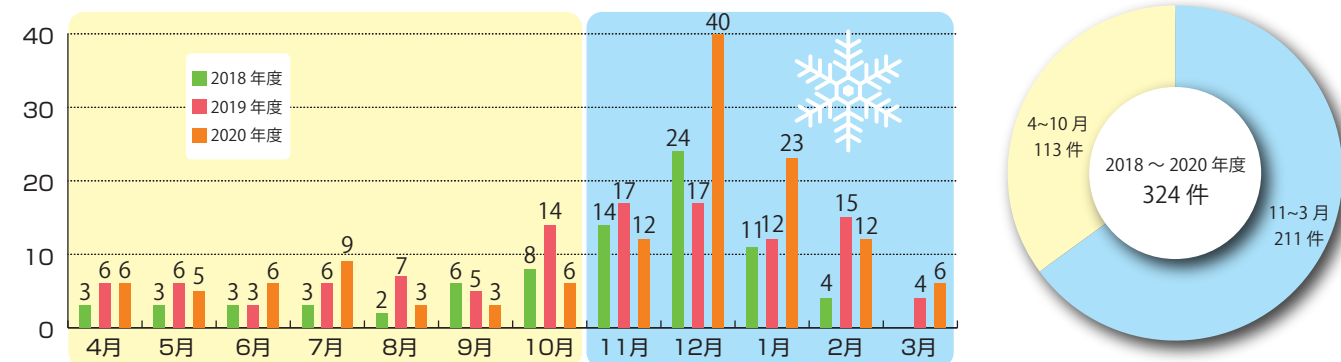
副会長(交通対策委員長) 工藤 修二

ホイール脱着時の不適切な取り扱いによる 車輪脱落事故が多発しています。

車籍別にみると、東日本地区に多く発生！

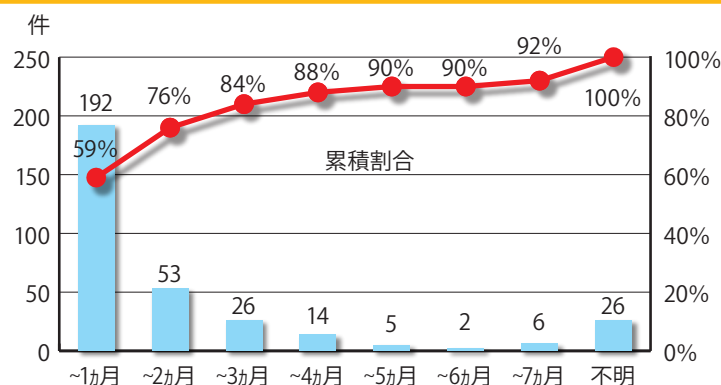


11月から3月の冬季に約7割が脱落

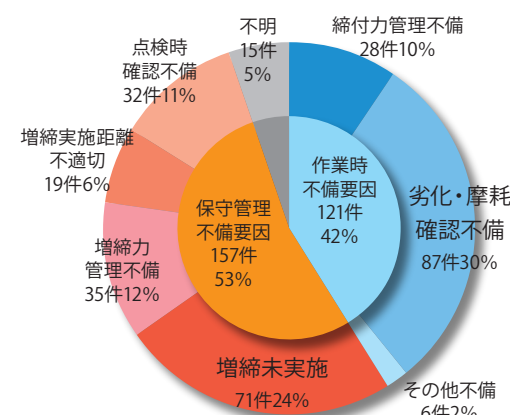


冬用タイヤ交換時は特に注意！！この時期には取付状態の点検を徹底しましょう！

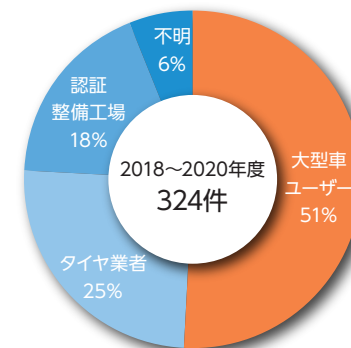
タイヤ交換から2か月以内に約8割が脱落



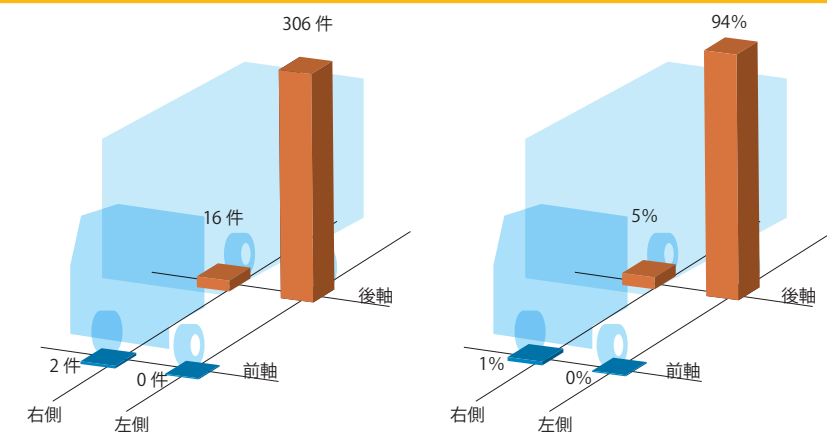
特に、劣化・摩耗確認不備と増し締め未実施が原因と思われるものがあわせて約5割！



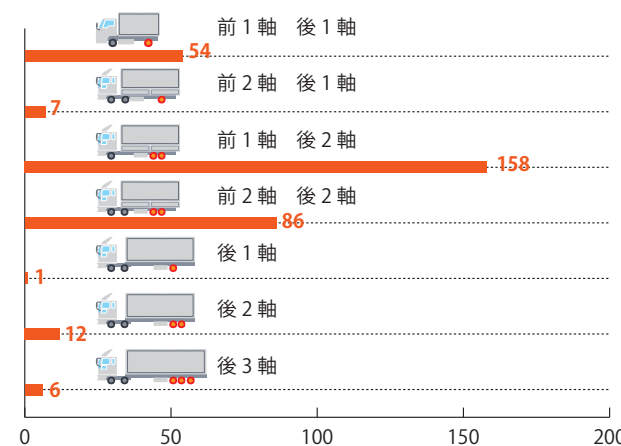
車輪脱落事故の半数が ユーザー自らによる作業



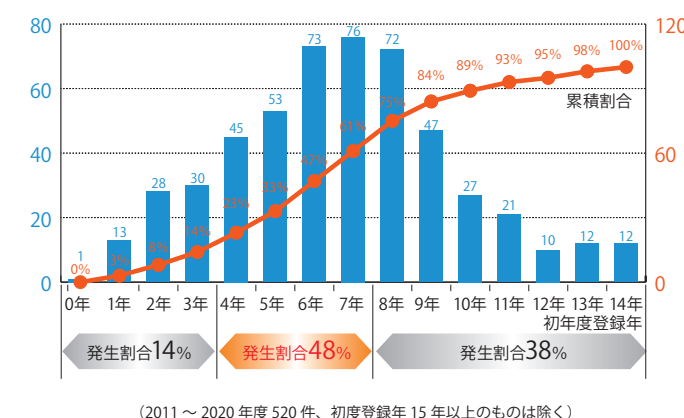
脱落するタイヤは、左側後軸が全体の9割強！



車輪脱落事故の約半数は 「前1軸 後2軸」車



初度登録年から4～7年経過車両に多く発生！



ユーザー自らタイヤ交換する時は特に左後輪に注意しましょう！

新しい大型トラックには新ISO方式の右ねじが採用されています

- 準備** ディスク・ホイールに適合したホイール・ボルトを使用します
- 点検** ホイール・ボルトやナットを点検し、必要に応じて交換します
・ボルトのサビ・亀裂や損傷
・ボルトの伸び
・ねじ部のつぶれ、やせ、かじり等の異状
- 清掃** ホイール・ボルトのねじ部、ホイールナットのねじ部、ディスク・ホイールを清掃（さび、ゴミ、泥、追加塗装等の異物を取り除く）します
・ボルトやナットのねじ部に加え、ナットとワッシャーとのすき間にも注油します。
- 締め付け** トルクレンチを使用して、ホイール・ナットを規定トルクで確実に締め付けます
- 確認** タイヤ交換後、50～100km走行後に増し締めを確実にします

【点検】



【給脂】



「タイヤ交換時のポイント」が全ト協ホームページからご覧頂けます。

https://jta.or.jp/member/anzen/tenken_snow_dvd.html

